

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 21日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2875201705		
法人名	医療法人 八十嶋病院		
事業所名	グループホーム 花の風		
所在地	〒651-2113 神戸市西区伊川谷町有瀬556-1 (電話) 078-974-8741		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	平成19年9月26日

#### 【情報提供票より】(平成19年6月11日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算	10.9人

##### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無 (期間: 3年)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,300 円			

##### (4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	八十嶋病院、西尾歯科医院、介護老人保健施設風と緑		
---------	--------------------------	--	--

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

須磨区にある医療法人が母体で、介護保険導入により自然に介護施設の必要性を感じ2ユニットのグループホームを設立している。緑に囲まれた約1,000坪の敷地に公園が隣接し、さらに広く見せている。樹木や季節の花が沢山植えられ野菜が収穫できる菜園もある。利用者はこの環境の中で散歩を楽しんでいる。職員は「待つ」ことの大切さをしっかり認識し、利用者の意向やペースを尊重しながら支援している。今後はさらに市との連携を積極的に働きかけ、運営推進会議等サービスの質の向上に活かすことが期待される。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	評価はグループホームケアのあり方を基本的に示してくれるものと捉え、課題点は全職員で明確にして方向性にずれがないか確認し、改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	全職員で自己評価を行い全員の意見を盛り込んで管理者がまとめた。一人ひとりの職員の意向が理解出来、貴重な時間と捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	会議への積極的な参加があり、地域から見たり感じた事柄を報告してもらいホームの取り組み内容を具体的に説明して、情報交換をしている。評価についても報告し貴重な意見をもらっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族へは利用者の暮らしぶりや楽しいエピソード、健康状態等を書面や写真で月に1回知らせている。「ご意見箱」を置いており、職員が聞いたことも含めクレーム記録、相談記録に内容と対応策を記録している。行事などの家族が集まる機会に家族会を開き、個別の意見も受け止め、またホームからも改めてホームの状況を伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地元の小・中学校とは交流があり近くのお寺での年1回のフェスティバルに参加している。ホームの夏祭りには200人の参加があり、老人会主催の「ふれあい喫茶」にも参加している。現在周辺地域の自治会はないが、発足しようとしているので、自治会に加入する予定である。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らすことを前提に、「明るさ、優しさ、おおらかさ」とシンプルに表現している。書の指導を受けていた利用者に毛筆で書いてもらい掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念が書いてあり、利用者との関わりの中で言葉遣いやケアに関して気づくことがあれば、職員同士声を掛け合っている。仕事のなかで穏やかさをなくす事はないが、明るさをなくす時はないか等、「行動指針」をあげ、管理者及び全職員が守り実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小・中学校とは交流があり近くのお寺での年1回のフェスティバルに参加している。ホームの夏祭りには200人の参加があり、老人会主催の「ふれあい喫茶」にも参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、全員の意見を盛り込んで管理者がまとめている、一人ひとりの職員の思いや意識が理解でき、貴重な経験と捉えている。ホームの方向性は根付いてきているが自己満足に陥らず、評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヵ月に1回開催している。地域から見たり感じたことを含め、参加者からは積極的に意見をもらいホームの取り組み内容を具体的に説明して、情報交換をし評価についても報告し貴重な意見をもらっている。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市担当課とは、利用者に関する手続き等のために出向いたり相談する程度にとどまっている。		利用者の状況やケアサービスの取り組み等、ホームの実情を折りに触れて伝えるために、ホーム便り(花の風通信)を届ける等の積極的な取り組みが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホームの行事や利用者の様子の写真を印刷した「花のたより」を作成し、利用者個々の暮らしぶりやエピソード等を記載してそれぞれの家族へ毎月1回送っている。また別途、本人の健康状態、金銭の使途、家族会やケア等に関する会議報告等も詳細に記載して報告している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	「ご意見箱」を置いており、職員が聞いたことも含めクレーム記録、相談記録に内容と対応策を記録している。行事などの家族が集まる機会に家族会を開き、個別の意見も受け止め、またホームからも改めてホームの状況を伝えている。運営推進会議に出席してもらった利用者や家族からも意見を積極的にもらうようにしている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ダメージ予防のため普段から1人の利用者に対して2名程度の職員が主に関わるようにしている。異動や離職がやむをえない場合は利用者や家族に退職の挨拶をしている。ダメージの大きい方にはしばらくもう一人の職員が1対1で支援している。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は現場で技術や知識を身につけ働きながら訓練している。外部研修は内容等を掲示するのでパート職員も希望すれば受講できるようにしている。管理者は職員が順番に資格を取得したり、認知症介護実践者研修等の研修に参加したりできるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム連絡会に参加し、また認知症介護実践者研修等で知り合った事業所と交流や連携をはかり、職員会議で報告し全体化している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居制度があり、主体は本人として家族も利用者も納得がいくまで緩やかに馴染んでもらうようにしている。利用者はホームには客として来たとの思いが強く、長時間ホームに滞在することで混乱が生じて、生活が安定するのを見極めていくようにしている。		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、それぞれ立派な方であると職員が認識を共有し、利用者からは日常教えてもらう場面が多い。利用者個々の生きてきた時代や生活があるので困難は感じているが、共に暮らす中で喜怒哀楽に向き合いながら支援するようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情から希望を把握するよう努めている。意向などを明確に表現できない方には、声掛けへの反応で相手の気持ちを読み取るよう心がけている。観察する中で、過去の生活から思い起こされる、本人から発せられるキーワードをつかんでいくようにしている。		
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	原則として各利用者の担当職員が、個別介護計画を家族の意向を反映させながらたたき台を作成し、計画作成担当者や介護支援専門員、必要に応じて他の職員とカンファレンスを行ない計画を作成している。月1回の職員会議でプランをどう活かせるか意見を出し合っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ではあまり変化が大きくみられないため、現状では6ヶ月に1度の見直しとなっている。状態が変化した際は随時利用者、家族、職員で検討し、臨機応変に対応している。		状態の安定している利用者の場合でも、新鮮な目で本人・家族の意向や状況を確認し、予防的に対応していくために、月に1回程度の見直しが望まれる。
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族が安心して暮らせるようにホームの持っている物は最大限に活かすことを心がけている。通院時は法人病院はもちろん他病院も家族の状況に応じて対応し、送迎等必要な支援は柔軟にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の意向や希望を確認し、協力病院や利用前からのかかりつけ医に受診できるようにしている。家族の付き添いが困難であれば職員が通院介助し、複数の医療機関と関係を密にして利用者の健康状態について相談できるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化とは何か、寝たきりになった場合その人にとって何が適切なのかについて、話合いの機会を作り家族や医療機関と方針の統一を図っている。家族の要望がはっきりしている場合は、医療と連携で支援につなげ寄り添うことを考えている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の取り扱いもヘルパーステーションに置くときは裏向け、「花のたより」の写真も本人、家族の許可を得ている。職員が利用者に掛ける言葉もていねいで、誇りを傷ついたりプライバシーを損ねるものでないよう気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でお互いに譲り合いをしてもらいながら本人の要望を取り入れている。健康を大切にしているので食事が終わる時間は統一せず、箸が進まない人も、食事が済むまで待っている。職員は待つことの大切さを自覚し、利用者の様子を見ながら支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	半分調理済みのものが食品業者から届き、果物、生野菜、ご飯、汁物等は職員と利用者と一緒に準備する。その事により見守り、介助の支援が少しになり食事はばかりに手を取られないようにしている。しかし、週2回(水・金)は利用者の好みを取り入れメニューを工夫して利用者や職員が同じ食卓を囲んでいる。		メニューを考え、買い物や調理を行う等の食事に関する一連の行為は、五感の刺激にもなるため、ホームで一緒に考え、調理の回数を増やしていくことが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴日の中で、希望する時間に入浴してもらっている。入浴したがる方には声掛けに工夫し、時間を置いて薦める等の工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことを発揮してもらうように努め、活力を引き出すようにしている。調理等の家事、菜園での野菜作り、園芸療法士も関わりながら花を育てたり、書道・社交ダンス等の習い事もボランティアの協力で行っている。月に1回は社交ダンスパーティーも開催している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩などの外出は気分転換や五感の刺激になると捉え、可能な限り出かけられるようにしている。ホームの広い敷地内や隣接している公園等を散歩し、公園や買い物先では地域の方や店員等との会話等関係ができていく。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。過去に見守りをしていても利用者が一瞬外に出られた経験から、チャイムとアラーム(駐車場)を付けているが、できるならば自由とプライバシー確保のためなくしていきたいと考えている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て、年2回防火訓練、設備点検を職員、利用者協同で実施している。警察署や地域住民に災害対策についての協力支援をお願いし、備蓄については災害用でないが2、3日の食材を確保している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分摂取量は毎日チェック表に記録している。食事を食べないときは、後ほどおにぎりにして居室に届けており、お茶はいつでも自由に飲めるようお茶と湯飲み等を出しておき、自分で入れられない方には支援している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>いつも静かに音楽が流れ、ホーム内のあちこちに花が生けられ季節感を出している。広いリビングは音や光の刺激が強くないように配慮している。リビングはダンスホール等多目的に使用するので大きなソファのみが置かれている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みに応じたものや、仏壇やたんす等馴染みのもの等を置き、持ち込みが少ない人の場合は、ホームで利用者が作った作品などを飾っている。</p>		

 は、重点項目。